

# KEN DOMON

## Japanese Sculpture

神護寺金堂 薬師如来立像左面相 平安時代前期 国宝

2000年9月5日(火) - 10月15日(日)

# 土門拳 — 日本の彫刻

休館日：月曜日

10月9日は開館、翌10日休館

開館時間：午前10時 - 午後6時（入場は午後5時30分まで）

毎週金曜日は午後8時まで（入場は午後7時30分まで）

9月15日は午後6時まで

入場料：一般 800円(640円)

大学・高校生 560円(450円)

中小学生 240円(200円)

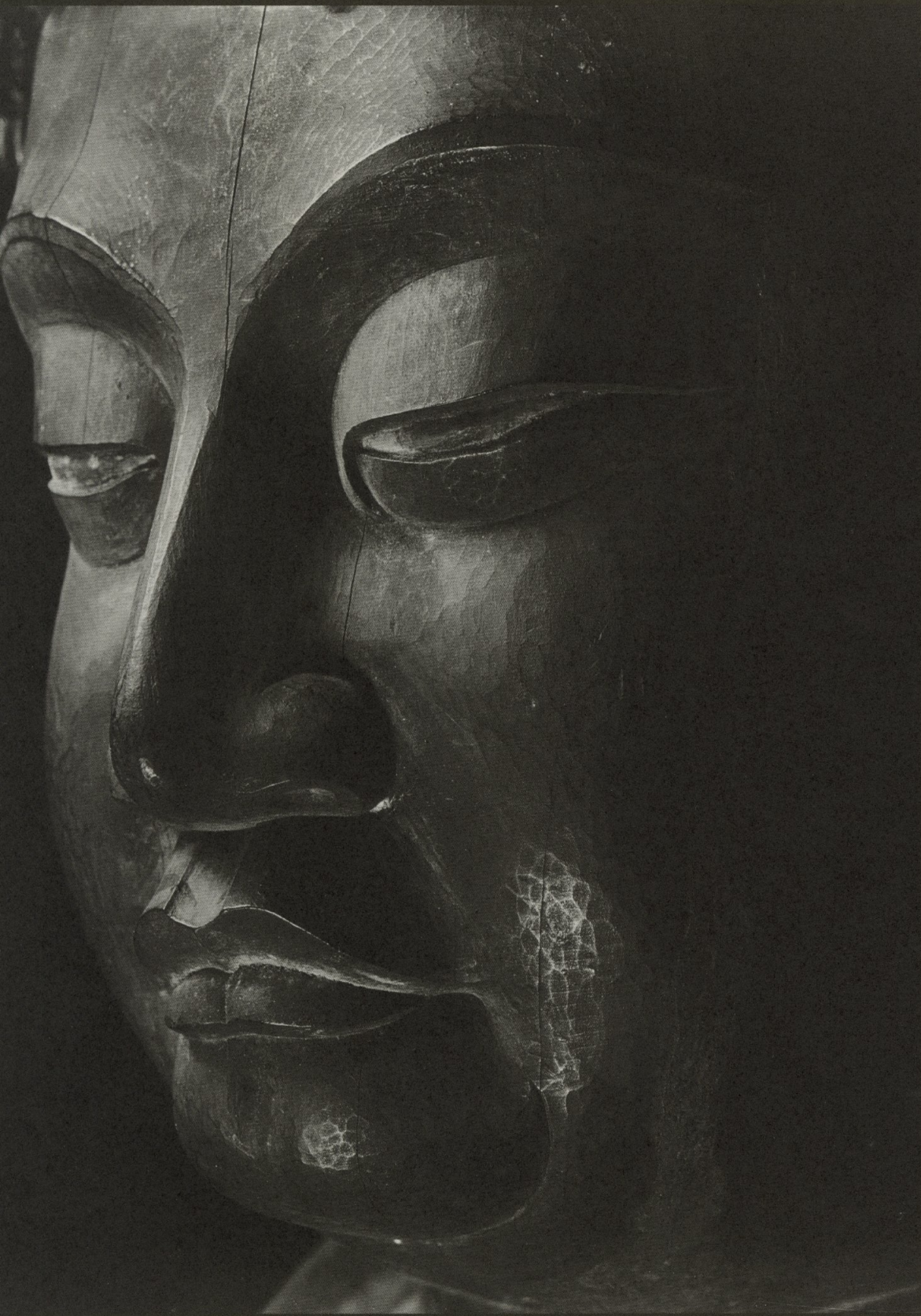
( )内は前売、団体30名以上

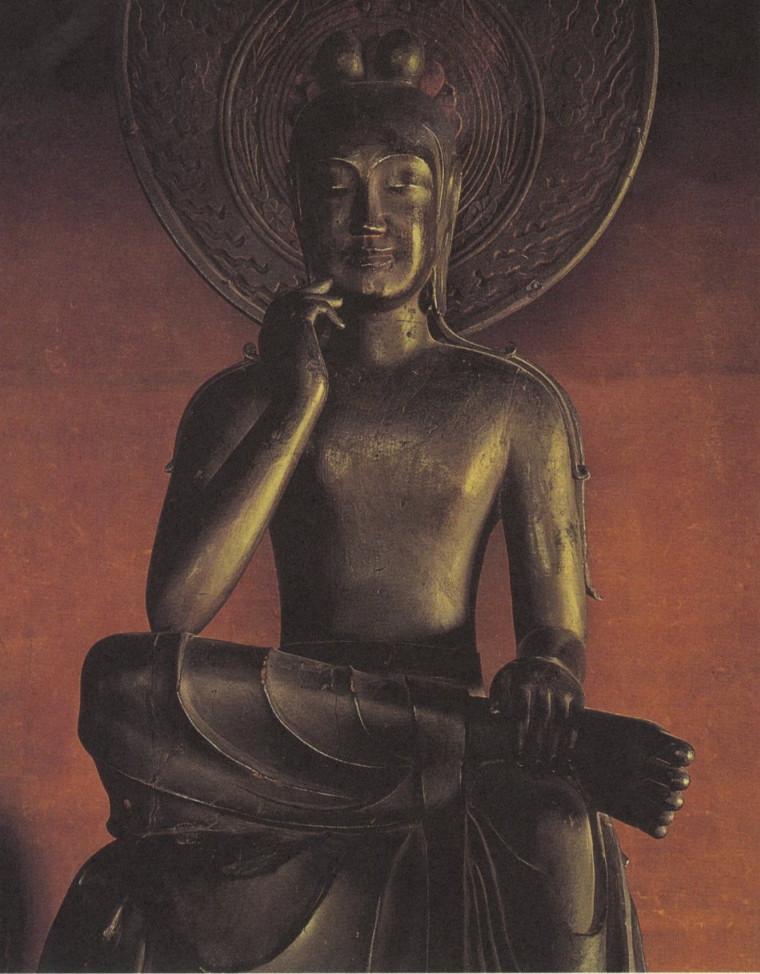
右記入場料で所蔵作品展も併せてご覧いただけます。

ハローダイヤル：043-227-8600

主催：千葉市美術館 / 毎日新聞社  
協力：(財)土門拳記念館

 千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art





中宮寺 観音菩薩半跏像(伝如意輪観音) 飛鳥時代 国宝

『ヒロシマ』(1958)、『筑豊のこどもたち』(1960)などで知られる写真家・土門拳(1909-90)は、その生涯に日本の彫刻を数多く撮影し、その対象は古代の土偶・はにわから現代彫刻にまでおよんでいます。

なかでも、わが国の彫刻史において重要な位置を占める仏教彫刻の撮影は1940年に本格的な取材が開始され、『室生寺』(1954)・『古寺巡礼』(1963-75)といった業績に結実しました。

本展では、土門拳が1979年に病に倒れる直前まで編集を行っていた『日本の彫刻』(1979-80)が対象としている、飛鳥時代から鎌倉・南北朝時代にかけての約850年の間に制作された彫刻の中から、各時代を代表する国宝・重文などを中心とした約80点の彫刻を130カットの写真で紹介するものです。

すぐれた彫刻と土門拳との出会いによって生まれた写真作品は、彫刻の魅力を引き出しながら、同時に写真家の視線を強く感じさせるものとなっています。その意味で土門の没後10年目に開催される本展は、通覧することが困難なわが国の彫刻の歩みの一端を紹介するところみであると同時に、現代を駆け抜けたひとりの写真家の仕事の回顧でもあります。

こんなにも永く日本文化に取り組んできたのは、  
やはり日本人が好きだったからであろう。——土門拳



浄瑠璃寺本堂 吉祥天立像 鎌倉時代 重文



室生寺金堂 木造十二神将(未神)頭部 鎌倉時代 重文

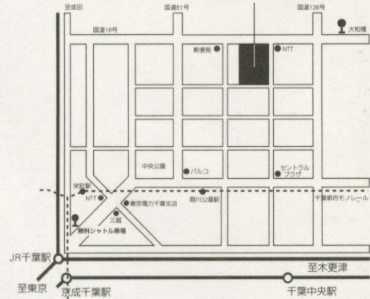


妙法院 蓮華王院本堂(三十三間堂)内陣 雷神立像面相 鎌倉時代 国宝



神護寺金堂 薬師如来立像足部 平安時代前期 国宝

千葉市美術館



千葉市美術館  
〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8  
Telephone: 043-221-2311  
http://www.city.chiba.jp/art

講演会：【土門 拳—酒田での五日間—】

講師：ねじめ正一(詩人・小説家)  
日時：9月30日(土) 午後2時より  
会場：美術館1階・さや堂ホール

対談：【彫刻へのまなざし】

講師：江口 遇(彫刻家)  
高橋幸次(日本大学芸術学部教授)  
日時：10月7日(土) 午後2時より  
会場：美術館11階・講堂

両日とも先着順に150名まで受付(入場無料)。

次回予告

菱川師宣展(仮称) 10月24日(火) - 11月26日(日)

- JR総武線千葉駅
- 東口より徒歩約15分
- 京成バス大学病院行または南矢作行(のりば⑦)「大和橋」下車徒歩約2分
- 千葉都市モノレール県庁前行「霞川公園」下車徒歩約5分
- 無料巡回シャトルバス「チーバス」(のりば⑩)「中央区役所・美術館前」下車(11:00~18:00の毎時05分と35分に出発・水曜運休)

■ 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

※来館者用駐車場は少ないので、自家用車での来館はご遠慮ください。

KEN DOMON  
Japanese Sculpture